

## 国立国会図書館の現況と課題

国立国会図書館 利用者サービス部（副部長）  
本吉 理彦（もとよし ただひこ）

### はじめに

皆様、こんにちは。国立国会図書館の本吉理彦と申します。

今回で第 18 回となります日韓業務交流に参加し、貴館を訪問する機会を得ましたことを心から嬉しく思っています。私どもの受入れにご尽力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

それでは、基調報告として、国立国会図書館のこの 1 年の動向について報告いたします。

### 1 「私たちの使命・目標 2012-2016」

国立国会図書館では、2012 年に大滝館長が就任した後、「私たちの使命・目標 2012-2016」を策定しました。この「私たちの使命・目標 2012-2016」は、国立国会図書館の果たすべき使命とおおむね 5 年間にわたって取り組む 6 つの目標を掲げたものです。昨年の第 17 回日韓業務交流のテーマの一つが国立国会図書館の戦略計画でしたが、そこで報告したとおり、現在の我々のサービス・業務はこの使命・目標に沿って進めていることから、今回の私の報告もこの目標に従いながら、報告します。

また、使命・目標とは関係ありませんが、2014 年 12 月に網野光明が副館長に任命されたことを報告します。

### 2 目標 1：国会の活動の補佐

#### （1）全般

国会に対するサービスは国立国会図書館の第一義的な任務であり、調査及び立法考査局を中心に全館的な体制で提供しています。2014 年度には、国会議員等からの依頼を受けて、約 4 万 1 千件の調査回答を行いました。国会での議論の対象となると予測される課題についてあらかじめ調査を行う予測調査を 337 件行いました。国会議員及び議員秘書に予測調査の成果等を説明する政策セミナーを 19 回開催しました。

重要な国政課題に関する分野横断的な総合調査として「東日本大震災からの復興の取組の現状と課題」を行い、科学技術に関する調査プロジェクトとして「情報通信技術の進展に

伴う諸問題」を行い、それぞれ成果を刊行しました。

## (2) 国会発生情報の提供

国立国会図書館は、国民に対して国会会議録等の国会発生情報の提供を行っています。2014年12月に、国会会議録検索システム、帝国議会議録検索システム、日本法令索引の3つのシステムの改修、機器更新を行い、検索速度の向上を実現するとともに、PDF形式での画像ファイルの提供や検索用API機能の提供といった利便性の向上を果たしました。

さらに東日本大震災が発災した2011年3月11日から同年8月31日までの震災関連の本会議及び委員会の審議の動画を、2015年3月に東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）で公開しました。

## (3) 外国議会図書館との協力

韓国国会図書館及び韓国国会立法調査処とは、毎年度、定期的に業務交流を行っています。2014年度は、12月に韓国側の訪日団を迎えて業務交流を実施しました。

また、国際協力機構（JICA）による「ベトナム国会事務局能力向上プロジェクト」に2013年度から参画しており、2014年度には、ベトナム国会図書館職員の訪日研修、ベトナム国会図書館への当館職員派遣等を行いました。

# 3 目標2：収集・保存

## (1) 収集状況

2014年度に新たに受け入れた資料は、図書約21万点、逐次刊行物約57万6千点、非図書資料約6万8千点、合計約85万5千点です。

2014年度には国内出版物の網羅的収集のため、納本による資料収集の強化に取り組みました。様々な媒体を活用した広報、個別の出版社への納入依頼、地方自治体への周知及び納本の依頼等を行った結果、高い納入率を維持しています。

## (2) 電子的に流通する情報の収集等

昨年も報告したとおり、国立国会図書館では、引き続きインターネット上の電子書籍、電子雑誌の網羅的収集に向けて、段階的に法制度を整備し、収集と保存に取り組んでいます。

2009年からは国等の公的機関の運営するウェブサイト（＝インターネット資料）の制度収集を開始しており、2013年からはオンライン資料収集制度（愛称：eデポ）に基づき、民間で出版された無償かつDRM（技術的制限手段）のない電子書籍、電子雑誌等のオンライン資料の収集を進めています。2014年度末現在で、これらオンライン資料は、民間のもの4,326点、公的機関のもの267,144点を収集・保存・提供しています。

民間で出版された有償かつDRMのある電子書籍、電子雑誌の収集については、出版界等の関係者の協力を得て、国立国会図書館内でこれらの提供を行うことを中心とする実証実験を開始する準備をしています。

## (3) 科学技術資料・情報の整備

国立国会図書館では「科学技術情報整備基本計画」を策定し、科学技術情報の整備を行っており、現在は、第三期の計画期間です。第三期が2015年度末で終了することから、外部

の学識経験者からなる科学技術情報整備審議会において、次期計画策定の基となる提言をまとめるための検討を進めています。

#### 4 目標3：情報アクセス

##### (1) 利用状況

東京本館、関西館及び国際子ども図書館の3施設において、遠隔利用サービスと来館利用サービスを提供しています。

2014年度の3施設の遠隔利用サービスは、図書館に対する貸出し約9千点、複写の処理件数約25万7千件、文書レファレンス約5千件、電話レファレンス約3万1千件、図書館向けデジタル化サービスによる総閲覧件数約10万5千件、複写件数約4万9千件でした。

2014年度の各施設の入館者数は、東京本館では開館日数278日、入館者数約53万1千人、関西館では開館日数278日、入館者数約6万1千人、国際子ども図書館では開館日数284日、入館者数約10万2千人でした。3施設合計で、約69万4千人となり、過去最高でした。

##### (2) 利用環境の整備

国立国会図書館では、2012年1月に業務サービスシステムのリニューアルを行いました。2017年度に次のシステムリニューアルを予定しています。また、インターネットの更なる普及とデジタル化の進展などにより、利用者のニーズや図書館の情報サービスも大きく変化しようとしています。

これらの変化に対応し、次期のシステムリニューアルに備えるために2014年度には利用者サービスの今後の在り方について検討しました。これを基に、今年度は新しい利用者サービスの基本計画を策定する予定であり、現在、検討を進めています。

##### (3) 資料のデジタル化

これまでの業務交流でご報告してきたとおり、国立国会図書館では、所蔵資料のデジタル化を継続的に進めてきました。

デジタル化の現況は次のとおりです。

表1 デジタル化資料提供状況（概数）

種別	インターネット 公開	図書館送信	国立国会図書館内 限定公開	合計
図書	35万点	50万点	5万点	90万点
古典籍	7万点	2万点	—	9万点
雑誌	0.8万点	73万点	50万点	123.5万点
博士論文	1.5万点	12万点	0.5万点	14万点
その他	5万点	—	7万点	12万点
合計	49万点	137万点	62.5万点	248.5万点

(2015年7月1日時点)

また、2014年度補正予算において、約10億円のデジタルアーカイブ整備作業のための予算がつき、災害、防災関係の資料のデジタル化を行うことになり、本年度に跨って作業を行っています。これにより、図書5万冊以上、雑誌1万冊以上がデジタル化される見込です。

前報告した電子版博士論文については、2014年10月から提供を開始しました。デジタル化資料の国内図書館向け送信サービスについては、明日のテーマ(1)の中で詳しくご説明します。

#### (4) サーチの連携拡張

NDLサーチは、当館の所蔵資料だけでなく、外部の各機関の各種データベースと連携して、紙資料もデジタル資料も統合的に検索できる情報検索システムです。2014年度末のNDLサーチの連携機関数は68機関、対象とするデータベースは99件、累積データ数は83,434,898件となっています。

NDLサーチを所管する電子情報部では、2015年3月に「国立国会図書館サーチ連携拡張に係る実施計画」を策定しました。これは、今後の連携対象とする機関・システム、今後5年間を目途に実現を目指す連携拡張の規模と長期的な目標、効率的な連携拡張の方式等を定め、関係各機関と共有し、今後の連携拡張を円滑に進めることを目標とするものです。

#### (5) 障害者サービス

2014年6月から、当館が作成又は公共図書館等から収集した視覚障害者等用データについて、日本全国の点字図書館等が制作した音声DASIY・点字データのデータベースサービスである「サピエ図書館」を通じた送信を開始しました。

さらに2015年4月からは、視覚障害者等へのテキスト化データ提供に係る実験を実施しています。

目標3に関連しては、書誌情報の利活用推進にも取り組んでいますが、これについては、明日のテーマ(2)で詳しくご説明します。

### 5 目標4：協力・連携

#### (1) 全般

日本の唯一の国立図書館として、国内外の各種図書館や図書館・関係団体との連携・協力は、国立国会図書館の重要な任務です。

図書館の活動を支援するために、図書館間貸出し、複写、図書館向けデジタル化資料送信サービス、レファレンス・サービスを行っています。

また、都道府県・政令指定都市の公共図書館長、大学図書館長との懇談会を毎年実施しています。

#### (2) 図書館協力事業

図書館に対しては、先程触れた図書館サービスを提供するとともに、研修交流活動、総合目録の作成、レファレンス協同データベースの構築等の図書館協力事業を実施しています。研修交流活動では、国立国会図書館に研修生を集めて行う集合研修、インターネットを通じ

て提供する遠隔研修、各地の図書館に職員が講師として出向く講師派遣型研修を実施しています。

### (3) 国際協力

海外の国際機関等に引き続き各種データを提供しています。OCLC (Online Computer Library Center) に対して書誌データの提供を、VIAF (Virtual International Authority File) に対して典拠データの提供、ワールドデジタルライブラリーに対して当館デジタル化資料の提供を行いました。

国立図書館等との交流は、韓国国立中央図書館のほかに、中国国家図書館、韓国国会図書館及び韓国国会立法調査処と定期的な業務交流を行っています。デジタルアーカイブ事業については、韓国国立中央図書館、中国国家図書館と連携を図るために第4回日中韓電子図書館イニシアチブ会議が中国で開催され、職員を派遣して協議を行いました。

2014年12月には、フランス国立図書館との協定に基づき、電子展示会「近代日本とフランスー憧れ、出会い、交流」を製作し、フランス国立図書館の電子展示会と同時に提供を開始しました。また、これを記念して、国際シンポジウムを開催しました。

## 6 目標5 東日本大震災アーカイブ

東日本大震災に関する各種の記録を一元的に検索・活用できるポータル・サイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ」(愛称ひなぎく)の2014年度末のメタデータ総数は、2,884,504件となりました。2014年度の増加数は、約32万4千件です。

この1年では、被災地域の商工会議所のウェブサイトの収集に取り組んできました。また、2014年12月には、県立図書館と震災記録に関する連絡協議会を、2015年1月には、シンポジウムを開催しています。2015年7月には、2014年8月に続いて、書類・写真・動画といった記録の整理・保存のための講習会を開催しています。

## 7 目標6 運営・管理

### (1) 関西館第2期施設整備

2014年11月に関西館第2期施設整備に関して、衆参両院議長に対して、国立国会図書館建築委員会から、第1段階の実現につき、勧告が行われました。2015年度中に基本設計を経て、実施設計が終了する予定です。また、2016年度の予算における工事費の予算化にむけて準備しているところです。

### (2) 国際子ども図書館のリニューアル

国際子ども図書館のリニューアルについては、アーチ棟と呼ぶことになった新館がこの6月末に竣工し、約65万冊の書庫も整備されました。レンガ棟と呼ぶことになった既存棟の改修工事を実施しながら、本年度中に順次、新体制に移行します。年度内に、レンガ棟の第1、第2資料室が統合移転する児童書研究資料室がアーチ棟に、調べものの部屋、児童書ギャラリーがレンガ棟に、それぞれ開室します。

来年の3月には、リニューアル記念展示会を開催する予定です。

## おわりに

以上、この 1 年間の国立国会図書館の活動を見てまいりました。従来からの紙資料を基にしたサービスに取り組むとともに、インターネットの普及、情報のデジタル化に対応するという大きな課題にも対応を進めてきました。来館者利用者が増えている中で、遠隔利用サービスへのニーズも増えています。

その結果、国立国会図書館の活動領域は広がりつつあります。これ自体は否定すべきことではなく、むしろ国立図書館としての役割が増していることの現れとも言えます。その一方で、人員、予算等の経営資源は限られているので、各業務に優先順位をつけると同時に業務の効率化を図ることが必要となっています。また、NDLサーチに典型的に現れているように他の図書館、学術研究機関、文化情報資源機関との連携協力がなければ、国全体として情報資源へのアクセスや保存を保証することは不可能になりつつあります。

このような状況は、韓国においても同様ではないかと推察いたします。今回の日韓業務交流で両国立図書館がそれぞれの取組について報告し意見交換をすることで、我々が直面している課題を共有し、今後の連携協力の在り方に新たな展望を見出すことができるような実りある機会になることを願って、私の報告を終わります。